（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立天草高等学校　令和６年度（２０２４年度）学校評価表

１　学校教育目標

三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、求めて学び志を成す「地球（知究）市民」の育成を目指す。全日・定時・倉岳相互の連携を図りながら、しなやかで豊かな人間性の育成と、保護者・地域が信頼を寄せる学校づくりを推進する。

２　本年度の重点目標

（１）人権を尊重し生徒一人一人を中心に据えた心の教育の充実
（２）ＳＤＧｓの視点を持った生涯学習の基板づくり
（３）キャリア教育の推進
（４）地域との積極的連携
（５）働き方改革の推進

３　自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	・魅力ある学校づくり	・学校行事等の充実は図られたか。	・学校行事に参加する生徒の割合は、８割以上を目指す。	・行事内容の工夫・精選を図る。 ・生徒が、参加しやすい環境を整備する。 ・生徒との対話・指導の充実を図る。	B	・予定どおり学校行事を実施することができた。 ・最近の総務部担当の行事の参加率は、2学期終業式72.0%、3学期始業式80.0%だった。
		・安心・安全な学習環境は確立できたか。	・生徒一人ひとりが安心して授業に参加できるように、日々の学習環境を整える。	・担任に限らず、すべての職員が生徒から相談・要望を聞き取れる人間関係を築いておく。	B	・毎日の職員連絡会や月１回の生徒連絡会を通じて、職員間での情報共有を行い、生徒とのコミュニケーションを図った。さらに、年間５回の面談週間を設定し、生徒の現状や相談、要望を受け止め、学習環境の改善に努めた。特に授業では、個々の生徒に合わせた課題を作成し、必要に応じてティームティーチングを導入することで、生徒が安心して参加できる授業つくりを実現した。
	・不祥事防止及び地域・保護者・生徒の信頼と期待に応える教育活動	・日頃の危機管理意識の向上及び実践はできたか。	・他校の状況を参考にし、定期考査及び入試事務処理等の個人情報管理を徹底する。 ・不祥事を「０」にする。	・個人情報管理の共通理解事項について、確認シートを作成し全職員が共有する。 ・不祥事防止テキストを基に確実に実行する。	A	・個人情報管理については、１月までに５回ほど資料・調査をもとに共通理解を行い、特に「GoogleClassroom」など校外へ発信可能なソフトへの個人情報データを保存しないことを図った。 ・不祥事防止については、１月までに６回ほど資料・新

						聞記事等をもとに職員への規範意識の高揚を図った。
		・教育活動の公開は十分か。	・新聞等の広報誌を発行する。 ・ホームページの充実を図る。 ・公開授業を実施する。	・「定時制新聞」を年５回発行する。 ・日々の学校行事や話題をホームページに掲載する。 ・振興会総会の際に授業を公開する。	B	・「定時制新聞」は、年５回の発行予定に対して３月の発行を残すだけになった。 ・ホームページに学校行事等を掲載して情報発信を行うことができ、大幅に閲覧数を伸ばした。 ・振興会総会への保護者の出席率は上がったが、授業公開への参加については今後の課題である。
	・学校改革	・校務改革は図られたか。	・勤務環境を、改善し、協働体制を整え、業務の効率化に取り組む。 ・「学校ＤＸ化」に向け、ペーパーレス化を目指す。	・意見を出し合い課題を認識すると共に全職員で共有・改善する。 ・ＤＸ化に取り組むことで、職員の負担軽減を図り、各会議等の資料はデジタル化しクロームブック活用の定着を図る。	A	・労安懇話会を２ヶ月１回実施し、校長・教頭・事務長・衛生推進員２名にて、勤務時間状況及び職員アンケートをもとに協議を行い、校務改善を図った。協議内容に関しては、全職員へ共通理解を行い、特に事務職員の業務を改善した。 ・各会議等の資料をデジタル化し、パソコン上での資料確認を図った。昨年度の印刷用紙の使用量の約３０％を削減することができた。
		・授業改革は図られたか。	・新学習指導要領施行をふまえて、理解力や特性に応じて、より質の高い教育を提供する。	・各授業担当者が効果的な指導のあり方や教材研究に取り組み、授業と評価の改善を図る。	B	・ICT機器による効果的な指導方法に関して、U－KI指数の結果として、教師の指数が59.2%、生徒の指数が48.3%であり、教師のU-KI指数が生徒よりも高いことから、教師が積極的にICTを活用し、授業改善に取り組んでいるが、生徒のU-KI指数がやや低いことから、ICTを活用した学習活動への生徒の意欲向上や、教師からの支援がより一層求められる。
	・業務改善及び働き方改革	・勤務超過時間の短　縮は図られたか。	・教職員の勤務時間外在校時間を年間平均	・労安懇話会を通じて、常に職員の	A	・勤務時間外在校時間は４月から１２月までで月１４時

			月２０時間以内にする。 ・年間１５日以上の年休取得を、目指す。	勤務時間をチェックし、呼びかける。 ・月１回の定時退勤日、夏季休業中の学校閉庁日（４日間）を設ける。併せて、時間外勤務時間が長い職員には、個別に助言等を行う。		間３分であった。 ・年間年休取得に関しては、職員会議等を冬季休業前に実施、また、考査期間中も早期退勤を促した。令和６年１月から１２月までの年休所得平均は、１４．４日であった。
学力向上	・主体的に学習する習慣・態度の育成	・積極的な授業参加は図られたか。	・生徒との良好な関係を構築してから意見を求めることで、積極的な授業参加を図る。	・欠席の多い生徒については職員間で情報を共有するとともに、スクールカウンセラーや市役所の子育て支援課、ハローワーク等の関係機関と連携を図り、様々な支援のあり方について検討する。	B	・職員間では、日々の業務を通じて密接に情報共有を行いる。スクールカウンセラーは、月1回2名ずつ、1年生全員には年度当初に個別面談を実施した。また、市役所の子育て支援課など外部機関との連携も強化し、ケース会議を年2回実施することで、より適切な支援体制を構築している。生徒・保護者に対しては、欠席・欠課情報などを可視化し、わかりやすく説明することで、安心して学校生活を送れるよう努めている。
		・学習習慣の確立は図られたか。	・授業時のプリント課題や長期休業中の基礎学力向上のための課題の提出状況を確認する。	・それぞれの授業時に、基礎学力向上のための課題を出し、その回収に当たる。	B	・生徒への授業評価アンケートの結果、課題の提出状況は4点満点中3.5点と高い評価を得た。これは、課題提出が成績に影響することを周知したことが奏功したと考えられる。しかし、担当教科間の取り組みには温度差が見られ、一部の生徒については個別の指導・支援が必要な状況もあり、生徒の学習習慣や興味関心は多様であるため、これらの差異を考慮しながら、より効果的な指導を目指す。
	・指導力向上や授業	・授業評価の実施及び結果の活用	・生徒による授業評価アンケ	・授業評価アンケートの		・授業評価アンケートの結果、「授業へ

	充実に向けた取組	はできたか。	ートを年２回実施し、検証する。	結果をもとに教科を超えてアドバイスしあえる人間関係を作る。	C	の満足度」が4点満点中3.3点であった。公開授業やティームティーチング、ICT活用など、多様な指導法を取り入れ、授業改善に取り組んだ。今後は、授業のユニバーサルデザイン化も視野に入れ、より多くの生徒が授業に参加できる環境づくりを進めていく。
		・研究授業の充実は図れたか。	・本校の実情に応じた研究授業のあり方を検討し、実施する。	・教務部で企画、日程調整を行い、研究授業、合評会を充実させる。	B	・10月18日の高校教育課による学校訪問では、国語と理科の研究授業と合評会を実施し、教員の授業改善意欲を高めました。この機会を活かし、次年度も教務部主導で研究授業と合評会を定期的に開催し、授業力向上を図る。さらに、職員間の授業評価アンケートの実施も検討し、より客観的な視点から授業改善に繋げたい。
キャリア教育(進路指導)	・個々の能力・適性に応じた就職・進学指導	・個々の能力を伸長する取組と適性に応じた就職・進学指導ができたか。	・日ごろの生徒とのコミュニケーションを欠かさず、個別のニーズに応じて進学・就職準備を進める。	・生徒が見通しを持てるよう、情報を提供する。 ・生徒のペースに寄り添った進路学習の支援を行う。	B	・就職・進学を予定する生徒は、年間の予定も示しつつ、支援を行う事ができた。しかし、それ以外の生徒に対する個の支援では、課題が残っている。
	・社会人として必要な資質を身に付け働く意義を知る取組	・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	・学校生活全般を通じて、自らの役割を果たせるようにする。	・学校生活全般を通じて、自らの役割を果たせるように役割の大小を問わず、一人一役を働きかける。	B	・生徒会を中心に様々なことをお願いすることがあったが、キャリア教育の行事の中で一役をお願いすることには課題が残っている。
	・望ましい勤労観・職業観の育成	・キャリア意識の醸成は図れたか。	・未就労の生徒にはインターンシップ参加を勧める。 ・就労中の生徒には声を掛け、仕事と自らの関係の振り返りを促す。	・インターンシップや就労中の仕事を通じ、振り返りや問題の解決を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。	B	・企業見学やハローワーク見学を通して勤労観や職業観の育成を図ったが、インターンシップの参加者は１名のみで、就労中の仕事の振り返りもあまりできていない状態であった。
生徒指導	・基本的生活習慣の	・規範意識の醸成は図れたか。	・学校に楽しく登校できる環	・各ホームルームで毎日		・職員からの積極的な声掛けを継続して実

	確立を図り、学校生活への適応を促進		境作りを行い、遅刻・欠席を前年度の数字より減少させる。 ・生徒が互いに周囲の生徒とコミュニケーションを構築し、楽しい学校生活が送れるよう行事等を工夫する。 ・ＳＮＳ等を正しく使用できるようにする。	、声かけを行う。 ・各行事において生徒間の会話の機会を増やす取り組みをする。 ・ＳＮＳの利用について全校集会等の機会を捉え、正しい使い方を指導する。	A	施したことで、職員と生徒のコミュニケーションが醸成され、円滑な学校生活が送れている。 ・SNS等の利用に関しては全校集会等の機会を捉え指導を実施した。 ・機会を捉え、機会を逃さないように全職員で規範意識の向上に取り組んできた。
		・生徒理解のための取り組みは十分か。	・毎月、「生徒連絡会」を実施し、全職員が生徒の実態を把握し、共通理解を図り、指導に役立てる。	・毎月、各担任が生徒一人ひとりの職場・学習・生活の状況について報告することで全職員へ情報を共有し、対応策を話し合い実践する。	A	・毎日の始礼、毎月１回の生徒連絡会において全職員の共通理解を図り、生徒に対する理解を深めている。 ・生徒のわずかな変化を見逃さないように定期的な面談、必要に応じた随時の面談を実施した。
	・年間を通した問題行動の未然防止	・問題行動の未然防止は図れたか。	・特別指導件数を「０」にする。 ・連絡会で気になった生徒については担任・生徒指導部で早期に面談等を実施し、未然防止に努める。	・生徒理解に努め情報を共有し、職員の共通理解のうえ事前指導に重点を置き、早めに対応していく。 ・年間を通しての校内巡視を、実施する。 ・生徒のわずかな変化も見逃さず機会を捉え指導する。	A	・毎日の始礼、毎月１回の生徒連絡会において全職員の共通理解を図り、生徒に対する理解を深めている。 ・特別指導件数は「0」であった。 ・生徒のわずかな変化を見逃さないように定期的な面談、必要に応じた随時の面談を実施した。 生徒にも一番話しやすい職員に悩み等を話すように伝えている。
		・交通事故防止は図れたか。	・事故件数を「０」にする。	・長期休暇前や、全校生徒が集まる機会を捉え、注意喚起を行う。 ・交通安全教室を実施し交通事故防止に努める。	A	・交通安全教室を開催した。 ・今年度の交通事故は発生していない。今後も事故防止を目指して指導していく。
	・生徒会活動及び学校行事の活性化	・生徒会の主体的な活動の支援はできたか。	・各種行事への生徒会の積極的な関与を促す。	・各種の行事における企画立案への助言を行う。	A	・天草高校文化祭のうどんバザーにおいて地元食材にこだわったうどんを販売し好評であった。

人権教育の推進	・職員の人権感覚の向上	・職員研修の充実は図れたか。	・職員の人権意識の向上を目指し、研修の機会を確保する。（年間４回の研修実施）	・人権教育推進委員会で検討した内容について、職員会議などの場面を活用して共通理解を図る。 ・夏季休業中にオンライン形式での研修を実施する。	B	・4回の研修に対して、事前に人権教育推進委員会で内容を検討し、研修を実施できた。ただし、研修の実施後、研修内容の振り返りについて人権教育推進委員会が実施できなかったため、研修の評価について検討できなかったことが課題となった。
	・「命を大切にする心を育む指導」の充実	・命を大切にする心を育む指導の充実が図られたか。	・生徒一人ひとりの自己肯定感、自己有用感、自己効力感等の自尊感情を育成し、「命を大切にする心」を育むことの重要性を理解させる。	・自尊感情を高めるために、日常の言葉かけを積極的に行う。 ・視聴覚教材や外部団体・講師等を活用し、「ストレス対処」「薬物乱用防止」「救急法」についての学習を深める。	A	・研修を行い、職員全体で生徒の特性や個性などについて共通認識を持ち、自尊感情を高めるための言葉かけを積極的に行うことができた。また、「薬物乱用防止」「救急法」については外部講師を活用して、「ストレス対処」については職員で内容検討して実施し、学習を深めることができた。
いじめの防止等	・いじめ防止基本方針に則った活動を遂行し、いじめのない学校づくりを推進する。	・いじめの未然防止が図られたか。	・毎日の連絡会において、生徒の様子を報告し、未然防止に役立てる。	・連絡会において前日の様子を全職員で共通理解し指導方針を決定する。	A	・各学期にアンケートを実施し、いじめの訴えは「0」であった。 ・生徒理解に努め、共通理解を深め、日々の指導に生 かしたことがいじめ防止に役立ったと思われる。
		・いじめの早期発見の取組が、図られたか。	・年3回アンケートを実施し、考査期間に全生徒の担任面談を実施する。	・アンケート調査だけでなく生徒が安心して職員に相談できる人間関係の構築を行う。	A	・生徒理解に努め、生徒との人間関係構築を図りいじめの早期発見、早期対応を目指し、適宜面談等を実施した。
特別支援教育	・インクルーシブ教育の観点を踏まえた、特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	・生徒一人ひとりの実態把握に必要な支援の実施と、それを受けた評価、改善の実施ができたか。	・生徒連絡会で月に一度情報を共有し支援方法を検討・実践する。 ・学びのＵＤ化の視点を取り入れた授業を行う。 ・生徒の実態に応じて個別の支援計画・個別の指導計画等を作成し、実践する。	・教頭や特別支援コーディネーターを中心に個別の支援及び指導方法について全職員で共通理解を図りＳＣ・ＳＳＷと連携し支援体制を整える。 ・支援についての連絡会、研修、外部機関と連携した支援	B	・個別の支援計画・指導計画を作成し、内容の全体共有を図ることができた。また、必要な支援についても共通理解を図り、実践することができた。しかし、毎学期の支援会議を開催することはできなかった。

				会議を毎学期行う。 ・新入生に関しては中学校又は前籍校からの引き継ぎがある生徒を中心に個別の支援計画等を、担任が作成する。		
地域連携(ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙなど)	・統合型コミュニティ・スクール	・地域連携の組織づくり	・学校運営の基本方針に係る教育活動の計画等に関する協議を、充実させる。	・学校運営協議会を年２回開催し、本校の教育活動について検討する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生・保護者・本校職員への学校評価アンケートを実施する。	A	・学校評価アンケートによる結果について、昨年度と比較すると、各項目平均は在校生が0.4ポイント(3.4)上昇、保護者が0.2ポイント(3.4)上昇、本校職員が0.2ポイント(3.2)上昇となった。全体としては概ね好意的であるが、職員のアンケートの中で「学校経営」「学力向上」の分野で評価を下げている項目があり、今後の課題となる。
	・高校間の連携	・地域への情報発信	・年間を通じて生徒が地域ボランティアや地域行事に参加する。	・各方面からの参加の案内や地域広報などについて、生徒に周知し、積極的な参加を呼び掛ける。	C	・ボランティア参加者は少なかった。 ・今後は「すぐーる」を活用して周知を行い、積極的にボランティア活動の参加を呼びかける。
健康安全教育の推進	・健康に関する意識の高揚と環境保全意識の向上	・健康教育等の充実は図れたか。	・定期及び適時の保健指導を、実施する。個々の生徒の状況や季節に応じて、指導を心がける。	・年３回学期始めに生活習慣をチェックし、気になる生徒については、個別に保健指導を行う。 ・月１回「保健だより」を発行する。 ・保健室前掲示板を活用する。	B	・生活習慣チェックは、遅刻などで記入を忘れてしまう生徒がいるため、把握しつつ個別に指導していく。 ・保健だよりは毎月季節や実態、行事に合わせた内容を話題にしている。今年度から「すぐーる」での配信になったが、見てくれている様子も見られた。 ・保健室前掲示板は、今年度はストレス対処をメインに2ヶ月に1回の貼り替えを行った。ストレス解消法の一覧は写真に撮って試す生徒もいた。
		・学校給食の充実は図れたか。	・栄養面を考えた上で、可能な限り生徒が喜ぶ内容にする。	・生徒の要望を聴取し、予算の範囲内で、パン・ジャム等	B	・今年度は予算の都合上、ジャムがない日が出てきてしまった。また、パンが小さくなったので足りているか心

				の種類を変更する。		配である。 ・内容については、時々生徒から直接意見を聞き、牛乳の回数やジャムの種類を変えるようにしていた。
		・環境教育の充実は図れたか。	・年２回のエコスクール週間を中心に生徒の環境意識を向上させる。	・エコチェックアンケートの実施と環境ＩＳＯ委員会による集計・検証・改善を行う。 ・入学式で新入生の花道を飾るための花の球根植えを行う。	A	・エコスクール週間の第1回はロッカー整理の点数が低かったため、2回目の目標にしたところ、意識して取り組むことができた。全体的にも1回目より2回目の点数が高かった。 ・チューリップ球根植えは、今年度も一人一鉢にしたが、生徒たちも意欲的に取り組んでいた。
	・体力向上と安全教育の推進	・安全教育等の充実は図れたか。	・交通安全教育、薬物乱用防止教室を実施する。	・生徒指導部、保健体育部及び関係機関と連携を図りながら企画する。	A	・交通安全教室は動画等を用いて、視覚的にも生徒に分かりやすい内容で実施できた。 ・薬物乱用防止教室については、一般社団法人ひごのいえから講師にお呼びして話をしていただいた。分かりやすかったと生徒たちもしっかり聞いている様子が見られた。
		・体力・気力の向上は図れたか。	・定通体育大会、マラソン大会等、体育行事に積極的に参加させる。	・保健体育部が中心となり生徒一人ひとりに応じた計画的な指導を行う。	A	・定通体育大会、校内マラソン大会、ボウリング大会等体育的行事を実施し、生徒は積極的に参加していた。 ・体育の授業において積極的な活動を行い、体力の向上を図った。

4 学校関係者評価

学校運営協議会を年２回開催し、定時制の取組について関係者へ報告を行うと共に意見をいただいた。また、生徒・保護者・振興会役員・職員に対して実施した学校評価アンケートの結果等も報告した(学校評価アンケートは令和６年１２月に実施している)。委員からは、「生徒一人ひとりの居場所づくりに努力されていることが資料から伝わってきました。」また、「地域意見公開会in天草市」のワークショップにて「中学時代不登校だった生徒がとてもハキハキと意見を発表し、成長した姿に感動した。」とコメントをいただいた。アルバイト先では、とても真面目に働いており、大変助かっているとの評価をいただいた。ホームページの毎日更新と、掲載されている「図書だより」を褒めていただいた。要望として、「学校評価アンケート」資料の回答率を出して欲しいとのことであった。

5 総合評価

（１）昨年度に引き続き、本年度も1年次生の授業において、4月に全教科でTT（ティームティーチング）を実施した。また、5月以降は、各学年の生徒の状況に応じて、英語をはじめとする必要性が高い教科にTTを配置し、さらに、生徒からの個別な希望にも応えて、教員が該当教科の補助に入るなどのきめ細かい対応を行った。

（２）ＳＤＧｓの視点から、毎年教育の日講演会で、地元の伝統工芸品についての学びに取り組んでいる。今年度は竹灯籠作成体験を行い、地元の振興について学習した。また、環境教育において、チューリップ球根植付を実施、ゴミの分別等は、食堂内に分別ゴミ箱を設置して周知徹底を行い、身近な環境について日常的に考えさせている。

（３）面談週間を中心に生徒との面談を実施しており、年５回の実施ができた。また、計４回のキャリア教育を実施し、卒業後の進路について生徒自身に考えてもらう時間を設けることができた。本年度からアプリ「Handy指導室」を導入し、いつでもどこでも素早くデータを職員・生徒・保護者が確認できるようになった。
（４）入学案内ポスターの配付、学校新聞・ホームページによる発信等を通して、定時制の特色や学習活動・学校行事の様子、入学後の生徒の変容等を広く周知することができた。特にホームページは毎日更新を行い、１日当たり２００件以上のアクセスがあり、授業見学が５件という結果であった。
（５）勤務時間状況及び職員アンケートをもとに協議を行い、校務改善を図った。協議内容に関しては、全職員へ共通理解を行い、特に事務職員の業務を改善した。各会議等の資料をデジタル化し、パソコン上での資料確認を図り、印刷等の業務削減により勤務時間外在校時間は昨年度に比べ約１時間３０分改善された。

6 次年度への課題・改善方策

天草地域唯一の定時制高校として、個別支援を必要とする生徒や不登校傾向の生徒の学び直しの場として必要性が年々高まっています。背景には、ネグレクトや低所得世帯による家庭生活の不安定、中学校及び他の高校での人間関係トラブル、高校選択のミスマッチなど多種多様な課題を抱えた生徒たちが在籍している。そういう生徒たちが、安心安全に登校できる唯一の場所であり、何度失敗してもやり直すことができる居場所を提供するよう職員一同取り組んでいきたい。
（１）基本的生活習慣の確立ができていない生徒が在籍しており、SC・SSW・外部機関及び保護者との連携を密にしながら対応する。また、出席・欠課に関しては、職員・保護者・生徒と情報を共有し、特に可視化しながら理解を深め対応していく。
（２）基礎学力定着のためには、先ず教員の生徒に対するコミュニケーション能力のさらなるスキルアップを図る。特にICT活用など、多様な指導法を取り入れ、授業改善に取り組むなかで、授業のユニバーサルデザイン化をさらに推進し、より多くの生徒が授業に参加できる環境づくりに取り組みたい。
（３）コミュニケーションに課題を抱える生徒たちが過半数を超えている状況で、インターンシップ、ボランティア等の参加率が低いのが課題であり、キャリア教育の観点からもハローワーク等との連携をもとにアルバイト推奨をさらに図りたい。